

題字 故前田和二郎名誉教授
発行所
東京都新宿区信濃町 35
慶應義塾大学医学部
外科同窓会
発行人 山本修三

100号記念



刀林会理事長

山本 修三 (38回)

同窓会ニュース「刀林」は、今回で100号の発行となりました。年2回発行の本紙が、100号を迎えたことは大きな成果であります。外科医としてお忙しい日々の中でこれまで本紙の編集に関わって頂いた各年代の編集委員長及び編集委員を始め、投稿して頂いた皆様、また、このニュースをご愛読くださった皆様に心から御礼申し上げます。

9月で、このときは「慶大外科教室、同窓会ニュース」という名称でした。その1号の内容は、前田和二郎教授及び島田信勝教授の巻頭言に続き、羽鳥俊郎医局長による「教室現況報告」、井出行平刀林会理事長による「同窓会便り」、各研究室代表者による、「研究室便り」からなる4ページの構成でした。第2号は昭和39年(1964)2月(この年の10月、東京オリピックが神宮競技場中心で行われ、慶大外科学教室も救護班として参加しました)で、1号から2号の発行まで2年5ヶ月を要しま

した。その理由について、井出行平理事長は、1号が出て、その後何もしないうちに1年を過ぎ全く汗顔の至りですと2号の中で述べられておられます。2号には昭和37年、38年の同窓会総会の記録が記載されたおり、8ページの構成で記録としては連続しております。この2号から本紙の名称が「刀林」となりました。その理由は、1号の名称は長すぎるということ、同窓会名及び以前のある時期、発行されていた同窓会冊子「刀林」にちなんで変更されたようです。「刀林」の文字は、前田和二郎先生の

筆によるものであることはよく知られていると思えます。ついでに言うと、刀林の刀は、外科医を表し、「林」は、初代茂木教授の木と後の木村教授の木を並べたもの(80周年記念誌より)だそうす。

昭和36年の第1号以前の同窓会記録は、1926年(この年の12月25日、大正から昭和に改元された)に始まり、「刀林」という名の冊子として、年1回14巻(1939年)まで発行されました。各巻200から300ページのポリウムで、その内容の面白さは抜群です。野田首相流にいえば、「近いうちに」少しづつ「刀林」の内容を抜粋して紹介させて頂きたいと考えています。1から14巻の冊子「刀林」のうち、4巻から14巻までは、同窓会として保管していますが、残念なことに1巻から3巻までが見当たらないのです。14巻以後は、教室・同窓会の会議記録という形で昭和21年までの記録があります。そして、前述のごとく、昭和36年から現在の「刀林」が始まった訳でありま

平成24年度刀林会総会報告

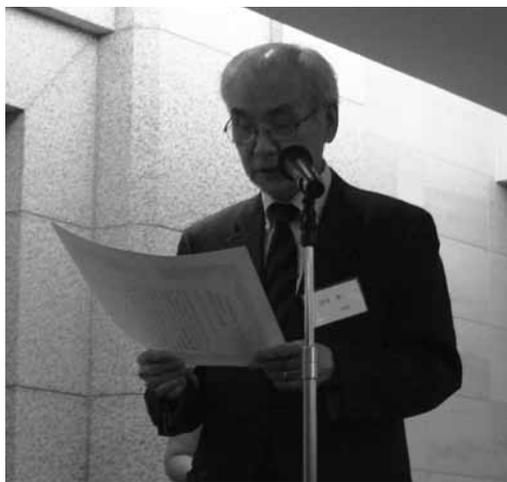
慶應義塾大学医学部
外科(心臓血管)

古梶 清和 (63回)

平成24年度刀林会総会は6月16日(土)に例年通りホテル・オークラのアスコットホールで多数の会員の先生方にご臨席いただき、盛大に開催されました。古梶清和同窓会係(63回)の総合同会のもと、山本修三理事長(38回)の総会開会の挨拶に続き同窓会年間報告で始まりました。冒頭に昨年度ご逝去された会員13名の先生方に対しご冥福をお祈りして黙祷が捧げられました。同窓会年間報告に続いて、四津良平教室主任(52回)から教室年間報告として教室の現状と人事についての報告がありました。秋山武紀会計係(77回)から平成23年度決算報告があり、戸倉康之君(41回)より会計監査について報告があり承認されました。また、平成24年度事業計画および事業計画に基づいた平成24年度予算報告があり承認されました。続いて山本修三理事長から刀林会の現状の活動に合うよう改訂された会則についての説明が



あり、承認されました。山本修三理事長より呼吸器外科教授に関する人事報告があり承認されました。来年度には、藤田保健衛生大学医学部・脳神経外科教授である廣瀬雄一君(66)回が会長を務める第33回日本脳神経外科コングレス総会(平成25年5月10日)に、藤田保健衛生大学



医学部・消化器外科教授である前田耕太郎君(58回)が会長を務める第75回日本臨床外科学会総会(平成25年11月21日)に、名古屋の開催が予定されており、刀林会として開催予定の2学会を支援していくことが承認されました。本年度の刀林賞には4研究が選出されました。刀林賞選考委員長である田中勤君(38回)より選考経過についての説明があった後、表彰式が行われました。受賞研究は、井上仁人君(69回)の「Synchronized epiaortic two-dimensional



and color Doppler echocardiographic guidance enables routine ascending aortic cannulation in type A acute aortic dissection」藤野明浩君 (75回) の「リンパ管腫内リンパ液動態の検討」、伊東康博君 (78回相当) の「The impact of surgical outcome after pancreaticoduodenectomy in elderly patients」、三輪 点君 (80回相当) の「Single-Copy Gain of Chromosome 1q Is a Negative Prognostic Marker in Pediatric Nonpendymal, Nontrochlear Gliomas」の 4 研究であり、山本理事長より賞状と副賞の金一封が授与されました。これらはすべて最先端をいく研究であり、今後の外科学のさらなる発展が期待される受賞式となりました。

講演会は「慶應義塾大学病院の経営と新病院の建設について」と題して山本理事長の司会のもと慶應義塾大学病院・病院長の武田純三君 (52回) と慶應義塾大学医学部・新病院棟建設担当教授の渡辺真純君 (64回) のお二方にご講演をいただきました。慶應義塾大学病院の現状と具体化したところある新病院棟建設の青写真につきお示しいただきました。

総会終了後の懇親会は、山本理事長のご挨拶、小森昭宏君 (36回) の乾杯で始まり、ホテルの料理に舌鼓を打ちながらご歓談いただきました。途中新入室者の挨拶があり、この後くじ引き大会が行われ、ホテル・オークラの食事券やワインなど豪華景品を多くの刀林会員にお持ち帰りいただきました。ご満足いただけただように思います。四津教室主任が抱負を語った後、加藤文彦君 (86回) のエールで「若き血」を合唱し懇親会の幕が閉じられました。

第49回日本小児外科学会を終えて



東海大学医学部
外科学系小児外科学 教授
上野 滋 (57回)

このたび、平成 24 年 5 月 14 日から 3 日間、パシフィコ横浜 アネックスホールにおいて、第 49 回日本小児外科学会学術集會を開催させていただきました。学会設立より約半世紀を経て、これまでの道のりと現在のよき点をみつけ、さらに伸ばして次の発展に臨みたいと考え、「内と外を見つめなおす」視点、「Look and Appreciate」をテーマとして演題を募りました。過去最大の 600 演題の応募をいただきました。会期中は、特別シンポジウム「大規模災害時に求められること」のテーマを皮切りに、山下泰裕東海大学副学長による特別講演「夢への挑戦」、海外から招待講演者三名を含む 10 名の講演、国際セッション、シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップ、口演ならびにポスター発表、サテライトセミナー、内視鏡手術セミナー、卒業教育セミナー、市民公開講座と、企画した盛りだくさん

のプログラムに 1000 名を超える方々が参集し、いずれの会場でも熱意にあふれた討論が交わされ、盛会のうちに終了いたしました。開催準備と運営にあたりましては、東海大学の教職員の方々の協力だけでなく、慶應義塾大学小児外科グループ各位のご支援をいただきました。また、刀林会の諸兄からも特段のご高配を賜りました。このような会を催すことで、会員はもとより、同窓会、企業、地域でお世話になっている皆様のご支援を戴き、纏めることの大切さ喜びを体験することができました。改めて深く感謝申し上げます。日本小児外科学会は、刀

林会の諸先輩が活躍され要職を務められた、慶應医学の伝統を継ぐ会であり、また、子どもたちの未来を育



スタッフと

CHUGAI 中外製薬 | at the Front Line CHUGAI ONCOLOGY

Roche ロシュグループ

抗悪性腫瘍剤
劇薬、処方せん医薬品^注 薬価基準収載

ゼーダ[®]錠 300
Xeloda[®] カペシタビン錠

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること
® F. ホフマン・ラ・ロシュ社 (スイス) 登録商標

※ 効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。
<http://www.chugai-pharm.co.jp>

製造販売元 中外製薬株式会社 | (資料請求先) 〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1
2009年6月作成

astellas

免疫抑制剤 (タクロリムス水和物製剤) 薬価基準収載

プログラフ[®] 注注射液 2mg/5mg
カプセル 0.5mg/1mg/5mg
顆粒 0.2mg/1mg

Prograf[®]

劇薬、処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

「効能・効果」「用法・用量」「警告・禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

製造販売 アステラス製薬株式会社
東京都板橋区蓮根3-17-1
[資料請求先] 本社 / 東京都中央区日本橋本町2-3-11

11/10作成 AS12.G.01

第65回日本胸部外科学会 定期学術集会を終えて



久留米大学医学部
外科学 教授
藤田 博正 (51回)

第65回日本胸部外科学会定期学術集会を平成24年10月17、20日、福岡国際会議場ならびにサンパレスホテル&ホールにおいて開催しました。発表演題880題(応募演題1544題、採用率57%)、3200名余(有料参加者3014名、研修医・学生など208名)の参加者を集め、盛会裏に学術集会を終えることができました。

管外科、呼吸器外科、食道外科に共通する問題(専門医制度、就労環境、周術期管理、歴史、合併症対策)あるいは三分野の専門家が協力しなければ助けられない疾患の治療(大動脈食道瘻、食道気道瘻など)を取り上げました。有意義な議論ができたと思っております。特別講演は、久留米大学外科の先輩である横倉義武日本医師会会長や宇宙飛行士で刀林会会員でもある向井千秋先生にお願いし、好評を博しました。

本学会は、第6回を前田和二郎教授、第19回を赤倉一郎教授、第21回を加納保之教授、第24回を石川七郎先生、第39回を井上正教授、第43回を末舛恵一先生、第50回を川田志明教授、第56回を小林紘一教授、第62回を四津良平教授が主催され、この度第65回を私が担当させていただきました。慶應義塾大学外科の伝統と実績の賜と深く感謝しております。

学術集会のテーマとして「Specialist must know everything of something, something of everything.」学際と統合」を掲げました。このテーマに沿った6題の特別企画では心臓血



Postgraduate Courseも970名が受講しました。講師には日本の心臓血管、呼吸器、食道分野のトップランナーにお願いし、テキストも立派なものを作成していただきました。プレナリーセッション、Case Report Awardと合わせ、

若い会員には大きな励みになったことと思います。今回の学術集会の暖かみ、刀林会会員の暖かいご支援をいただきありがとうございました。この場を借りて心より御礼申し上げます。

第29回日本呼吸器外科学会総会は2012年5月17、18日の2日間、秋田で開催されました。みちのく秋田の開催ということに参加者を心配して下さったが、当日は1800人もの出席者で賑わいました。関係者からよく訪ねられたの

は「ホテルは大丈夫ですか?」ということでした。でもご安心ください、秋田は陸の孤島ではありません。ホテルは秋田市内だけで3000人収容可能です。秋田新幹線「こまち」も秋田自動車道も開通しています。飛行機も東京、大

阪、名古屋、札幌、ソウル等から一日20便飛んでおります。人口30万都市のゆえにご不便をお掛けするのでは、と危惧しておりました。が会員の皆様は大都会とは一味違う地方の学会を大変楽しみにしていらっしゃいます。たようで安堵しました。ま

第29回日本呼吸外科学会総会 を終えて



秋田大学医学部
呼吸器外科 教授
小川 純一 (52回)

た学会の合間に角館、田沢湖、男鹿半島等に足を延ばされ、新緑がまぶしい5月の秋田を満喫しておられたようでした。

学会のテーマは「次代の呼吸器外科医に伝えたい」とし、独自の研究と教育充実に向けて」といたしました。1240題余の過去最多の応募をいただき、活発な討論ができました。特別企画ではシンガポール、インド、韓国から演者をお招きし、日ごろ耳にするこ

とが少ないアジアの呼吸器外科の現状をお話しいただきました。秋田出身の内館牧子様、直木賞受賞作家の西木正明様の講演も好評でした。ただ2011年3月の東日本大震災は1年2か月経過してもその影を落とすように感じました。ドイツから招待講演者をお招きしたの

ですが、欠席の通知を受け取ったのは残念でした。福島原発問題の影響を気にかけられたのかも知れませんが、欧州に住む彼らにしてみれば秋田の地がどこにあるのか、福島からどれ位離れているのかは知るよしもありませんで致し方ありません。

慶應大学外科同窓会の先生方には秋田に来られる機会が少ないと存じますが、来秋の折にはお声をおかけください。おいしい大吟醸酒と秋田美人がお迎えいたします。

第16回臨床解剖研究会を終えて



第16回臨床解剖研究会当番世話人
藤田保健衛生大学医学部
消化器外科 教授
前田 耕太郎 (58回)

2012年の9月8日の土曜日に、第16回臨床解剖研究会を第30回愛知大腸肛門疾患懇談会との共催で名古屋駅前ウインクあいち(愛知産業労働センター)で開催させていただきました。名古屋での本研究会の

開催は初めてであり、前日の世話人会では研究会開催以来最も多くの先生方のご参加をいただき、また演題公募では、追加募集を行わなかったにも関わらず32題の演題をいただきましたこと、同門の慶應の先生方の

ご協力・ご指導に深く感謝申し上げます。あいにく雨日和の一日でしたが、100人の先生方の参加をいただき雨をも吹き飛ばす熱い討論を一日行っていたことができました。

今回は、私どもの専門が

消化器外科特に大腸肛門外科ということもあり、シンポジウムのテーマを、「骨盤臓器解剖の全て」とさせていただきます。佐藤会長、大腸外科の森谷先生のご司会のもと解剖、泌尿器科、婦人科、外科から臨床解剖に際してご発表と討論を行っていただきました。この部位の解剖は、骨盤臓器を扱う各科共通で手術を行う場所なのですが、実際には各科で微妙に異なる名称や理解があると思われま

す。今回の研究会では、講演会場を一所にしたこともあり、通常の臨床では聞くことの少ない領域の発表や付随する熱い討論を聞くチャンスがありました。特に今回多くの参加をいただいた解剖の先生方、形成外科領域の先生方のご討論は、これからの臨床や研究にとっても参考になったのではと思っております。

本領域の発展を祈念しますと同時に、刀林の先生方のご指導・ご協力に感謝申し上げます。

第33回日本脳神経外科

コンGRES総会のご紹介



藤田保健衛生大学
脳神経外科 教授
廣瀬 雄一 (66回)

第33回日本脳神経外科
コンGRES総会を平成25
年5月10日(金)から5
月12日(日)まで大阪国
際会議場(グランキューブ
大阪)で開催させて頂き
ます。日本脳神経外科コ
ングレスは1981年に発足
し、脳神経外科医の生涯教
育と科学的研究による脳
神経外科の進歩を通し
て、国民の健康、福祉に貢
献することを目的とした学
会です。最先端の知識を整
理するとともに脳神経外科
学の進歩を呼ぶ契機となる
ような会を目指し所存であ
ります。本会を開催するに
あたり、knowledgeの他
にintelligenceやwisdom
を伝えることを目的とし

た会を目指したいとの思い
で『知』の伝達」という
テーマを選びました。手術
という技能を中心とした医
学である脳神経外科にお
いては、何をどのように伝
えて教育を行うのかは決し
て容易な問題ではありません
し、個人が体験できる症
例数に限りがある現状では
教育にも工夫が必要でしよ
う。そうした中で生涯教育
を通じて脳神経外科の進
歩を招くためにはどうすべ
きかを自分なりに思索し、
現在の最新の知識を伝える
とともに、その根源となっ
ている思考過程も伝えるこ
とが重要ではないかと考え
ました。
脳神経外科の各領域
についてのプレナリーセッ
ションを企画し、これを補
う形でハンズオン、ビデオ

セッション、更に会期中の
モーニングセミナー、ラン
チョンセミナーを計画して
います。その内容にも、で
きれば治療法の成績や疾患
管理の方法紹介のほかに基
礎医学的側面をもつたもの
を加えたいと考えていま
す。プレナリーセッション
では脳神経外科領域外を専
門とされる先生方の講演も
頂く予定です。この中に
は慶應義塾大学医学部の先
生方も含まれています。
日本脳神経外科コンGRES
の理念に沿った有意義な
学会になるよう準備を進め
ている最中です。各方面の
先生方には何卒宜しく御指
導御鞭撻を賜りますようお
願い申し上げます。この中
に

第75回日本臨床外科学会総会

開催にあたって



第75回日本臨床外科学会総会会長
藤田保健衛生大学医学部
消化器外科 教授
前田 耕太郎 (58回)

このたび第75回日本臨床
外科学会総会を、平成25年
11月21日(木)〜23日(土)
の3日間、名古屋国際会議
場で開催させていただきます
こととなりました。名古屋に
おける総会は、同じく刀林

デンスに基づいたscience
をバックボーンに、人間が
人間をみる心heartにより
成り立って行われていま
す。近年、ともするとart
やscienceに重点が置かれ
すぎるくらいがあります
が、人間を観る、人間を中
心としての医学が外科臨床
の基盤と考えます。刀林の
伝統であると自負しており
ます。
学会では、臨床外科学会
一世紀に向けての、現在の
expertの経験の伝達、次
世代の外科臨床を担う医師
達の現状と展望、さらには
若手医師の教育、近年外科
臨床で益々期待されている
女性外科医たちの活躍の場
として活発な発表と討論が
展開されるよう種々の企画
を計画しております。特別
講演では、オリンピックで

活躍された選手やトヨタの
車の開発を主導された方々
からの、明日の外科臨床を担
う若手外科医への「夢と希
望を目指す」お話をいただ
きたいと思っております。
学会初日は、「ボジョレー
ヌーボー」にあたります。
当日は参加者の皆様に「樽
での新酒」を用意して「名
古屋メシ」と同時にお楽し
みいただく予定です。名古
屋で「良く学び、よく遊ぶ」
を実践していただき、名古
屋での学会すべてをお楽し
みいただけるよう誠意準備
いたしております。
第75回日本臨床外科学会
総会・名古屋が充実した実
りある学会になりますよ
う、刀林会の先生方のご指
導とご協力をよろしくお願
い申し上げます。
この度、平成23年度の栄
えある刀林会賞を受賞させ
て頂き誠に有難うございま
す。今回の受賞は多くの諸
先輩方より貴重な御意見、
御指導を頂いた賜物だと理
解しております。刀林会会
員の皆様、特に長島敦副院
長、ご推挙頂きました北川
雄光教授には深く感謝申し
上げます。
ポストチーフ出張以来約
6年間で約100例の膵
頭十二指腸切除を経験す
ることができ、これを期
に作成した「The impact
of surgical outcome after
pancreaticoduodenectomy
in elderly patients」の論
文が刀林会賞を受賞できた
ことは臨床医の一人として
感激も一人です。
当院では多くの肝胆膵外
科手術を手掛けることがで
き、日本肝胆膵外科学会高
度技能医制度、認定修練施
設は、横浜東部地区では唯
一の修練施設であります。
なかでも膵頭十二指腸切
除は症例数が多く、症例集
積をもとに慶應関連病院か
ら発信できる臨床研究に取
り組んで参りました。膵頭
十二指腸切除術は、他疾患
の手術に比べ死亡率、合併
症の発生率は高く一度合併
症が発生すると重篤な経過
をたどる可能性があり、な
かでも膵液瘻の発生は重篤
な経過を来すことがあり周
術期管理は非常に重要かつ
慎重に行われています。術
後成績の向上を目指し手術
の定形化、手技の工夫を検
討してまいりました。その
甲斐あり膵液瘻発生率、術
後在院日数ともに良好な成
績が得られております。近
年高齢化が進み手術手技、
周術期管理の向上に伴い高
齢者に対する手術適応も広
がりつつある中、外科的手
技や周術期管理においても
著明に進歩し、高齢者に対
しても積極的に外科的治療
が行われ、高侵襲・高難度
手術である膵頭十二指腸切
除術に耐えうるようであれ
ば年齢によって手術適応を
判断すべきでないと考えま
した。今回の検討で、適切
な術前評価が高齢者に対す
る膵頭十二指腸切除術を安
全性に行う要因の一つであ

刀林賞を受賞して



済生会横浜市東部病院
外科
伊藤 康博 (78回相当)

ることを示し、高齢化社会
における高難度手術の適応
の方向性を示していると確
信しております。
最後に、このような素晴
らしい賞を頂いたことは大
変名誉なことであり、その
受賞者として恥じることの
ないよう一層臨床に努力
精進致す所存でございます
ので、今後ともご指導ご鞭
撻を賜りますよう、よろし
くお願い申し上げます。



刀林賞を受賞して



足利赤十字病院
脳神経外科

三輪 点
(80回相当)

この度は伝統ある刀林賞を受賞することができ大変光栄に思っております。今回の論文「Single copy gain of chromosome 1q is a negative prognostic marker in pediatric non-ependymal, non-piloicytic gliomas」は慶應義塾大学脳神経外科での小児グリオーマ手術症例の染色体異常の解析を行い、その特徴を考察したものです。その結果、第1染色体長腕増幅を認める小児グリオーマは認めない症例と比較し、臨床的に予後が悪いという新しい知見が統計学的にも有意に証明ができ、また第1染色体長腕増幅は aggressive な小児脳腫瘍全体に共通したマーカーである可能性がある点、そしてこのような分子学的分類は病理組織学的分類よりも強く臨床経過に相関することを示すことができました。小児グリオーマの染色体異常解析の報告は過去に極めて少なく、今回の研究でこのような新たな知見を得ることができたのは非常に幸運でありました。この

研究は私一人では決して成し得ないことであり、脳神経外科研究室実験助手の小出さん、津崎さんをはじめとする多くの方々のサポートを頂いての結果と存じます。この場をお借りいたしまして深く感謝を申し上げます。今後のことになりませんが、小児脳神経外科の世界においては今回のような脳腫瘍のみならず先天奇形や水頭症等未だ解明されていない分野や病態が多々あり、私自身としては今後もリサーチマインドを維持しつつ、これらの解明にすこしでも役にたてる研究を行なっていければと思っております。

最後にになりましたが、この研究におきまして多大なる御指導をいただきました河瀬誠名誉教授、吉田一成教授、藤田保健衛生大学脳神経外科、廣瀬雄一主任教授、また佐々木光講師に深く感謝を申し上げます。

刀林賞を受賞して



慶應義塾大学医学部
小児外科

藤野 明浩 (75回)

伝統ある刀林賞を頂き誠に光栄に存じます。推薦して下さいました黒田達夫教授、研究に協力して下さいました多くの先生方、技師の方々に深く感謝申し上げます。私は小児のリンパ管腫の克服を目指して10年来研究しております。まだこの疾患の治療に本場に役立つ成果を挙げてはいませんが、今回このような形で途中経過を認めて頂いたことを大変嬉しく思います。

リンパ管腫は小児外科領域では比較的良好に見られる疾患で、大小のリンパ管腫の集簇を主体とした腫瘍を形成します。約20%は難治性で出生直後から長期に渡り苦しい思いをしております。その発生機序や病態の理解は未だ十分でなく効果的な治療法の出現が久しく待たれています。

今回の私の研究は、リンパ管腫内のリンパ液動態を把握しリンパ管腫発生の理解を目的として行いました。結果として、リンパ管腫組織内のリンパ液の動きは正常組織と比較して非常に遅いこと、リンパ管腫か



刀林賞を受賞して



平塚市民病院
心臓血管外科

井上 仁人 (69回)

刀林賞、ありがとうございます。地方の公立病院で働きながら、母校の刀林会より、このような評価していただきまして大変嬉しく思う次第であります。また、ご推薦をいただきました四津教授に感謝申し上げます。

今回受賞した内容は、日本発のオリジナル臨床研究として注目され、アメリカ西部胸部外科学会 (Western Thoracic Surgical Association 36th Annual Meeting) で採択され口演発表したものを The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery に論文としてまとめたものです。急性大動脈解離の救急において簡便かつ迅速に人工心肺を確立する新たな方法を考案し、臨床の現場で症例を積み重ねながら実践した結果、急性大動脈解離における補助循環の新たなオプションとして、国内のみならず海外でもこの方法が少しずつ浸透しつつあります。平塚市民病院でも、手術成績の改善に貢献し得る手段として、

継続して症例を重ね、良好な結果を得ています。疲弊した外科臨床の地域医療の現場では、人によっては、憔悴して新しい試みに挑戦するエネルギーが枯渇したり、開業など人生の質や家族を第一とした生き方を選ぶことも時に脳裏を横切りますが、今回刀林賞を授与していただき、創造して学び続けることが今までの自分を支えて来たエネルギーであると改めて思いました。自ら発明することほど、臨床を深く考え、それを自分の手中に深く会得する手段はないと考えます。

心臓血管外科分野の技術革新はとも早く、ステントグラフトや経皮的な大動脈弁留置術など、新たな治療法が次々と開発されていきます。卒後23年になる今でも、常に経験不足と認識しつつ、自分の技術と知識を充進していくの追われる日々です。今後も先輩方にご指導を賜りつつ、後進の育成にも更に尽力し続けて参りたいと思っております。ありがとうございます。



病院紹介

川崎市立井田病院



副院長

橋本 光正 (54回)

川崎市立井田病院は 1949年3月に結核、伝染病院として開設され、当初は50床の病院でした。その後診療科も増加し、現在は許可病床383床、標榜診療科34科の病院として診療を行っています。川崎市は人口143万人の政令指定都市ですが、全国的に人口が減少傾向になっている一方市の人口は増加しつつあり、当面この傾向は続き2030年には150万人のピークになるとい分析があります。病院が位置する中原区は武蔵小杉の大規模マンションの建築等の影響もあり、特に人口の増加が顕著になっています。

病院の特色として挙げられることは、川崎市内で唯一の結核病床を持つことと、1998年に開設された緩和ケア病棟を持つことです。2006年には地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、がんの診断と治療だけでなく、終末期や在宅の看取り等にも力を入れています。

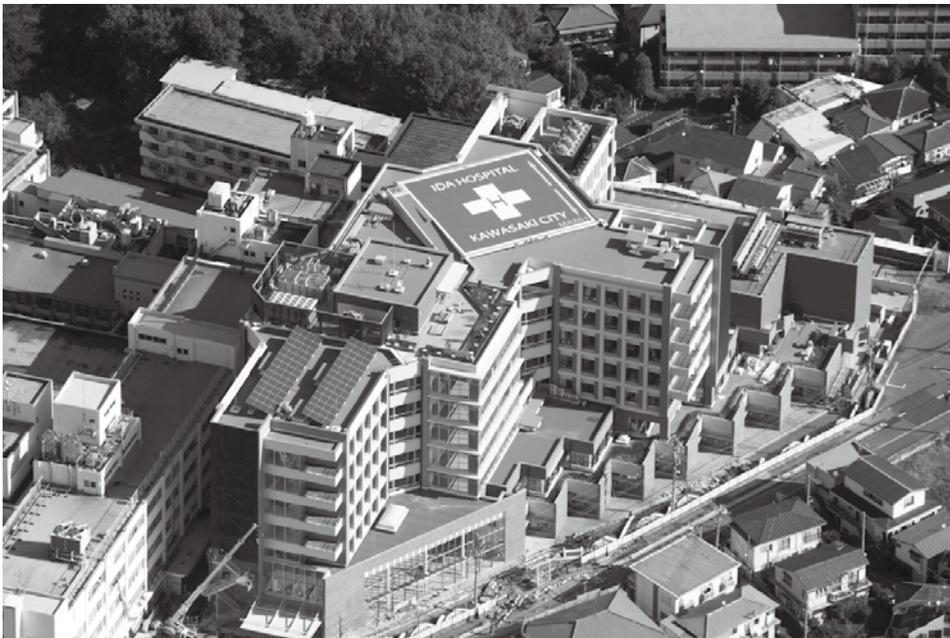
建物の老朽化のため、2009年からは「がん等

の高度特殊な医療の提供」「成人疾患医療の強化」「二次救急医療の強化」「結核医療の充実」「地域医療連携の推進」の5つの基本方針のもと再編整備事業に着手しました。2012年5月には1期工事が終了し、新棟での診療を開始しました。同時に電子カルテの運用も始めています。新棟は屋上にヘリポートを備えた免震構造の地上7階、地下1階建てとなっており、屋上からは南は慶應義塾大学日吉キャンパスや横浜ランドマークタワー、東は東京スカイツリーや東京タワー、西は富士山を望むことができます。

常勤医は51名で、刀林会メンバーは外科消化器外科では橋本光正(54回、副院長)、有澤淑人(63回、内視鏡室長)、玉川英史(70回相当、消化器外科部長)、中村威(75回相当、消化器外科医長)、嶋田恭輔(84回相当、乳腺外科副医長)、脳神経外科では小野塚聡(63回、脳神経外科部長)、呼吸器外科では安彦智博(74回相当、呼吸器外科医

長)のスタッフ7名と森禎三郎(89回)の後期研修医1名が勤務しています。平成23年度は外科全体で全身麻酔症例391例の手術を行いました。

今後はさらに地域の医療機関との連携強化を図り、より質の高い医療を提供できるように努めていく所存です。



病院紹介

国立病院機構神奈川病院



院長

加勢田 静 (53回)

独立行政法人国立病院機構神奈川病院は昭和14年4月に傷痍軍人療養所神奈川療養所として設立され、平成16年4月に国立病院が独立行政法人に移行したあとに現在の名称となりました。

慶應の外科関係では上村等(23)樋口公明(28)、宇都宮利善(34)、菊地敬一(40)、市来崙潔(48)などの諸先輩が院長を務められ、私は院長として13代目となります。

戦時中に始められた結核の外科療法はその後赤倉一郎先生(13)を指導者とするチームに引き継がれ、全国に先駆けて全身麻酔下の肺切除を行うなど神奈川病院は呼吸器外科のメッカになりました。その後、石渡弘一先生(36)が退任された後、小林紘一(46)、深井志摩夫(49)、橋詰寿律(63)、柿崎徹(67)先生などを経て、現在は根本悦夫(統括診療部長(56相当))にグループの指導に当たっていただいています。

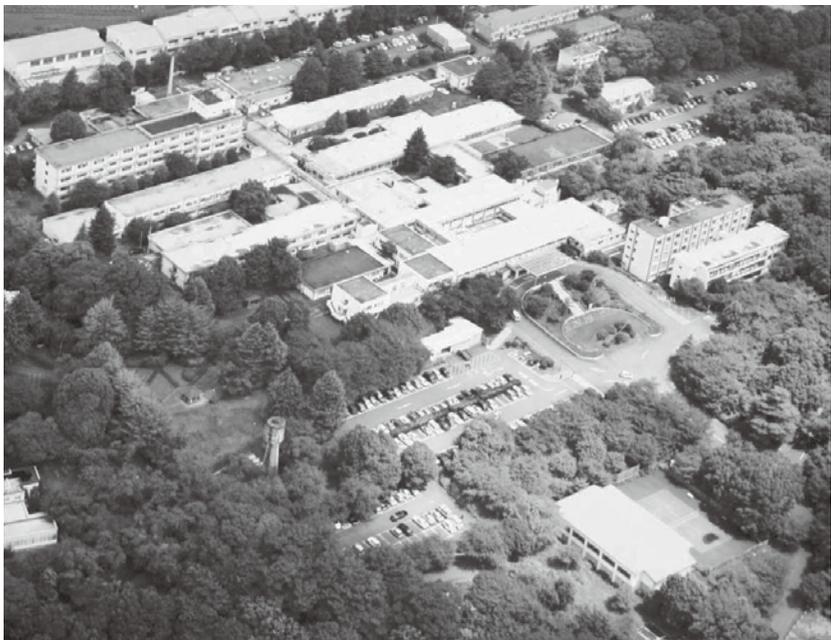
消化器外科は石渡先生の「呼吸器外科だけでは医

師確保が難しい」との考えのもと、慶應義塾大学から北條一字(47)、松本純夫(52)納賀克彦(48)、勝又貴夫(52)先生などに院長として基礎を築いていただき、独立行政法人に移行する直前に櫻井嘉彦(69相当)先生に赴任していただきました。徳原秀典(72)、清水裕智(79)や慶應、東海大学からのローテーションの先生を加えたメンバーによつて毎年業績を伸ばし続けていただいております。

が、平成21年に徳原医師が突然退職したことをきっかけに残念ながら慶應の消化器外科が引き上げることになり、平成22年度から生越喬二教授(50)のご高配により東海大学から派遣していただいております。

都心からの距離も相まって母校からの常勤医師派遣が従来ほど期待できず、刀林会員も私と根本統括診療部長以外は齊藤良一(62)、木村重仁(73特)、杉浦八十生(84)の3人になってしまいました。したがって、東海大学など近隣の大学に医師派遣をお願いせざる得なくなってきましたが、今後も慶應義塾大学という大きな傘の元、地道に医師確保を図って行く必要があります。

老朽化した病棟も、とりあえず重症心身障害児者病棟の立替が始まり、一般病床の立替も着々と準備中



病院紹介

東京都立 小児総合医療センター



副院長 鎌形 正一郎 (52回)

東京都立小児総合医療センターは、清瀬小児、八王子小児、梅ヶ丘(精神科)、および府中小児科の都立4病院を統合し、2010年3月1日に府中市武蔵台に開設されました。精神科200床を含む549床および専門診療科37を持つ小児総合病院で、高度専門医療、周産期医療(MEICU)9床、NICU(GCU 72床)、救命集中治療(PICU)ICU(22床)に重点をおいています。また、敷地内にある多摩総合医療センター(旧府中病院)、神経病院、府中療育センターとの連携・協同が、小児病院の先駆的モデルになり得ると考えます。

開設にあたっては、小児救急、集中治療、感染症などの専門家に加わっていたが、E.Rは救命救急科と総合診療科で運営し、年間37,000人の救急患者を診療すると同時に重症患者の病院間搬送も行っています。センターには130名の常勤医師がおり、後期研修医・専門診療科レジデント60名と非常勤医師30名を全国から受け入れ、卒後教育や臨床研究にも力を入れております。また、家族支援部門があり、リエゾンなど患者・家族のこころのケアができるようになりました。医局は一つで診療科間の壁が低く、横断的なチーム医療が機能していることも我々の自慢です。

一方、胎児診断、外傷外科、小児から成人への移行医療などはまだ不十分で、今後さらに強化しなければならぬ領域です。多摩地区の慶應、関連病院には以前より大変お世話になっていますが、他の中核病院を含めて連携のネットワークを創る必要も感じています。外科スタッフは、小児外科10名(研修医3名)、心臓血管外科4名、脳神経外科2名で、それぞれ年間手術件数は900件、150件、130件です。慶應からは鎌形(52回)、広部(62回)、小森(77回)、山本(83回相当)、加藤(85回)、小谷(84回)、杉山(76回)が参加しており、他にも多くの慶應出身者が活躍しています。これから伸びる病院ですので、小児医療をめざす先生方には是非仲間に加わって頂きたいと考えます。

永寿総合病院は、東上野の新病院に移転して今年で10年の節目を迎えました。今年度は、台東区の中核病院助成の10年延長や、公益財団法人への移行が実現し、民間病院でありながら、以前より公的な立場や責任を意識する機会が増えているように感じます。私は、北川教授のご配慮により、2010年4月に当院に着任しました。最初、400床とは思えないコンパクトなスペースの中で、多数のスタッフや患者が動くその密度の高さに感激したものでした。しかし、その程度で驚いている場合ではなく、その後の2年半で、52名であった医師数は70名に増加し、湯浅祐二院長の号令の下、全職員による経営改革も成果を上げ、医療収益は25%の増加を示しました。また、つい先日行なわれた病診連携の会には、当院から過去最高の50名の医師が参加し、地元医師会との懇親を深めました。医療の質や量の向上だけでなく、病院のために一致団結する機運も高まっ

ていると言えそうです。手前味噌ですが、永寿という下町の老舗が、かつてない躍動を見せ始めたように私には見えています。さて、当院外科には、私と小山恭正部長兼健診センター長(63回)、前田真悟副部長(76回相当)、大島剛医師(83回)に、後期研修医出張の阿部陽友君の計五名の常勤医が所属しています。また当院OBの板野 理講師、五十嵐直喜君には、手術の指導・支援にも多大な尽力を頂いています。脳神経外科には、篠田純部長(69回)と金井隆一医師(77回)が、救急疾患にも常に盤石の態勢で臨んでおり、呼吸器外科としては、成毛聖夫部長(70回相当)が孤軍奮闘しています。いずれの科も多くの刀林会の先生方の診療支援により成り立っており、この場を借りて感謝の意を表したいと思います。

外科のみの報告で恐縮ですが、最近一年間の全身麻酔症例は39例、腰椎麻酔は151例でした。当科には、私と同級の松井英男君の置き土産とも言えるべき腹腔鏡手術のノウハウが継承されており、着任後すぐにこの特徴を伸ばすことに取り組みました。過去一年では、胃癌手術の53%、大腸癌の61%、肝切除の89%を腹腔鏡で行ない、今後も手技の定型化や適応拡大を目指すつもりでいます。また本年より、大腸癌患者にERAS(S(術後回復促進)プロトコール)を導入し、これまでに14例中10例が、術後五日目に退院することができました。こうした先進的な外科治療と地域医療、とくに癌患者さんへの緩和を含む総合的な医療との両立を、目下のところ外科の基本方針としていきます。16床の緩和ケア病棟(PCU)との連携も整い、また来年から麻酔科の補強も決定して、手術の増加も望める状況になってきました。近い将来、外科の増員が必須になると考えています。その際は、是非とも先生方のご協力をお願いしたいと思います。

病院紹介

ライフエクステンション 研究所附属永寿総合病院



外科主任部長 愛甲 聡 (65回)

5-HT₃ 受容体拮抗型制吐剤 劇薬、処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること) プロキシ 静注 0.75mg Aloxi® I.V. injection 0.75mg パロノセトロン静注製剤

gsk GlaxoSmithKline 生きる喜びを、もっと Do more, feel better, live longer 抗悪性腫瘍剤/チロシンキナーゼ阻害剤 薬価基準収載 劇薬 処方せん医薬品(注意—医師等の処方せんにより使用すること) タイケルブ錠250mg Tykerb® Tablets 250mg ラバニチフトシル酸塩水和物錠

エッセー

第43回恙無会 (つつがない会、

旧食研外科学研究室同窓会) 報告

衝撃的な長距離バス事故、竜巻、複数医師を含む山の遭難等、暗いニュースが多かったGWの翌週、文字どおりの五月晴れであった5月19日(土)、30名参加のもと、午後5時より3時間あまり、銀座BRBで開催された。

前回より幹事となった丸山のプロデュース・司会で、楽しくにぎやかな集いで、あつという間に時がたち、予定の2.5時間を大幅にオーバーしてしまつた。

各自報告の中では、船曳君から、彼が学長を務めた藤田学園名古屋保健衛生大学卒業生被災者慰問で訪ねた東日本大震災の生々しい惨状がPPT画像とともに紹介されたのが印象的であった。

最後に参加されたご婦人方からも各自、ご挨拶をいただいたが、大方においてご主人よりも活発で、かつ、のびのびとしたスピーチが展開され、より多くの拍手が送られていた。

本会は、旧食研外科学研究室主宰者故石井良治君を中心にして始まり、以前は一泊旅行のことが多かった



が、多くの会員が高齢に達してからは都内でのということになった。石井君ご逝去

後、多数意見により同窓会として続けることが決定した。昨年よりは毎年5月第

3土曜夕、銀座BRBでということになっている。丸山・吉野記

前列左より:湯浅 鏡介、椎名 栄一、大槻 道夫、武石 輝夫、前田 外喜男、関根 迪式、田中 建彦。

2列目同:鈴木夫人、田中(建)夫人、桑野夫人、佐藤夫人、武石夫人、宮崎 道夫、船曳 孝彦、柴崎(旧姓染谷、元研究室秘書)。

3列目同:丸山 圭一、鈴木 卓二、本橋(旧姓田村、胃鏡室)、榎本 耕治、横山 拓也。最後列同:田中 豊治、武石 J、桑野 研司、古谷 健二、秋里 和夫、吉野 肇一、佐藤 清、丸山夫人、秋里夫人、大槻夫人

エッセー

富山での外科学会、刀林会のつどい



古屋医院 院長 古屋 正人 (49回)



富山県の三四会員は現在18名で、そのうち刀林会員は4名です。刀林会としては活動していませんが、外科の笠島が富山県三四会の会長をしており、年1〜2回懇親会を開催しています。古屋は5年前から富山県外科医会の会長をしており、年3回学術講演会を開

催していますが、毎年1回は刀林会会員の先生を御呼びしています。今まで、幕内東海大付属病院長、土屋国立がんセンター中央病院長、松本国立医療センター院長、藤田久留米大教授、そして今年の10月には北島国際医療福祉大学長と錚々たるメンバーに來富して頂

き、富山県の外科の先生方に慶應医学部の素晴らしさを知って頂いています。今年7月18日には、富山で開催された日本消化器外科学会に合わせて、「刀林会 in とやま」を企画しましたところ、阿部先生は御都合悪く欠席されましたが、掛川先生はじめ27名の

参加がありました。久しぶりにお会いした先生方も多く、参加者が卒業年度順に自己紹介を行った結果、最後に立ったのは北川現教授でありました。富山の酒や鱒寿司を味わって頂き、午後8時から11時までであったという間に和気あいあいの3時間が経過し、最後に「若き血」を歌い上げお開きとなりました。翌日、比企先生から「今まで何回も地方での学会に行ったが、こんなに多数参加の楽しい刀林会は初めてだった」との御電話を頂き感激しました。

いきいき富山、魚と自然は最高です。何かの機会には是非！お待ちしております。

参加者(敬称略)

掛川(33)、比企(37)、尾形(41)、小平(42)、北島(45)、熊井(46)、寺本(47)、川原(48)、幕内(49)、豊田(49)、生越(50)、安藤(50)、藤田(51)、米川(51)、松本(52)、高橋(52)、島津(53)、貞廣(57)、森(57)、渡邊(58)、前田(58)、小澤(60)、若林(61)、北川(65)

富山から 古屋(49)、笠島(51)、伊井(55)

エッセー

小児外科 富田紘史君(84回) 受賞報告



慶應義塾大学医学部
小児外科
下島 直樹 (76回)

平成24年5月14日、16日に開催された第49回日本小児外科学会学術集会上において、当教室の富田紘史君が年間優秀論文賞を受賞いたしました。本誌は日本小児外科学会雑誌に採択された論文の中から毎年特に優れた論文に対して与えられる賞で、今回、富田君の執筆した「総排泄腔奇形根治術後遠隔期に発症し、診断に苦慮した慢性腹痛・腹壁痛：ACNES (abdominal cutaneous nerve entrapment syndrome) の一例」が受賞論文に選ばれました。この論文内容は、腹部手術歴のある患児を襲った原因不明の腹痛に對して、種々の画像検査や投薬による治療などを経て、最終的に腹壁の知覚神経が腹直筋を貫通するところを絞扼されることによる腹壁痛であることを突き止め、同神経に対する麻酔薬の注入でついに痛みを取ることできた症例を経験し、外科医としての腹痛の原因の一つとして腹壁痛の存在を知っておくことの重要性を伝える内容となっております。筆者は論文の中で、当初腹壁痛という疾患概念が欠如していたこと、さらに患児には腹部手術歴や機能的性ディスプレイの既往があったことから腹部内臓の器質的疾患や機能的疾患を第一に考えてしまつたことが診断に苦慮した理由であると述べ、自己に對する反省の意も込めて過去の報告を詳細に調べ上げ、この一例の貴重な経験を論文執筆という形で社会に還元しました。

富田君は新進気鋭の若手外科医で、臨床における患者さんに対する視点、行動力は優れたものを持つており、患者さんや医療スタッフからの信頼も厚く、必ずや近い将来日本の小児外科を盛り上げていくくれるものと思います。表彰式では、副賞として授与された賞金の使い道を、これを軍資金にして新たな論文を報告していきたいと抱負を語りました。彼の益々の活躍に期待したいと思います。



左/第49回日本小児外科学会学術集会 会長
東海大学医学部小児外科教授
上野 滋君 (57回)
右/富田 紘史君 (84回)

エッセー

菊山胃腸科外科医院



菊山胃腸科外科医院
菊山 成博 (60回)

数年前下妻物語という深田恭子主演の映画が話題になりましたが当院はその下妻の街中にあります。原作者が茨城県下妻市を物語の舞台に選んだ理由というのは千葉茨城方面で東京から近いわりには思い切り田舎な街であるからということだそうで、確かに銀座まで車で一時間の距離であるにもかかわらずGoogleマップでみると良くわかりますがまわりは田んぼだらけでこの話には小生も納得しました。町並みも小生が中学の頃とほとんどかわらず街も小さいので皆知り合いとあった感じで都会の病院にありがちなクレームもあまり経験していません。当院は小生で三代目です。先代の跡を継いで9年になりましたが先代の急死により当時勤務していた済生会中央病院外科のスタッフの先生方には大変ご迷惑をおかけしましたがあれこれ考え跡を継ぐことにしました。と

朝六時、暁から燦々と煌めく太陽に向かってアークセルを踏み込む。言い古された "when it rains, it pours" のままに、いつ果てぬとも続く移植。手術室に響く怒号。深夜の高速道路を疾走する、ドナー臓器摘出に向かうワゴンの後部座席での束の間の深い眠り。初めての執刀。最後の症例。帰国後数ヶ月が経つた現在も、様々な場面が鮮やかに蘇ります。

朝六時、暁から燦々と煌めく太陽に向かってアークセルを踏み込む。言い古された "when it rains, it pours" のままに、いつ果てぬとも続く移植。手術室に響く怒号。深夜の高速道路を疾走する、ドナー臓器摘出に向かうワゴンの後部座席での束の間の深い眠り。初めての執刀。最後の症例。帰国後数ヶ月が経つた現在も、様々な場面が鮮やかに蘇ります。

わからないでも納得できるコメントをもらったりしてなんとかやってきております。先日の東日本大震災では当院も建物の被害はなかったものの前の国道が大きく陥没し電気、水道が止まりました。電気は3日で復旧しましたがしばらく水が自由に使えず内視鏡検査ができない状態が続きました。先代からの名前は変えず胃腸科外科の看板でやっておりますが外科といっても一人しかいないのでアッペ、ヘモ、ヘルニアといった感じで胃腸科は上部および下部消化管内視鏡検査をやるくらいでこの診療所でも同じだと思えますが内科系の慢性疾患の患者さんが増えてきております。

最近はこの病院でも病診連携に力を入れていたのに、いろいろおかげで日常の診療にはストレスは殆どなく、具合の悪い患者さん情報提供書一枚で送るのには以前は紹介を受けていた身から考えると心苦しい気がしてありますがこれもありがたいと思いがら診療させていただきます。

の移植施設のひとつで、米全国各地・海外から困難症例が紹介されてきます。とくにボスのツザキス教授は肝移植の始祖であるピッツバーグ大学のスターツル教授の下で移植の黎明期を先導した伝説の外科医のひとつで、肝移植のみならず小腸・多臓器移植の先駆者でもあります。ツザキス教授の下を巣立った外科医は米国内外で移植のリーダーとなつていますが、現マイアミ大学の西田聖剛教授、コロンビア大学の加藤友朗教授も同門です。

帰室報告

永遠の光



慶應義塾大学医学部
一般・消化器外科
日比 泰造 (77回)

この二年、私は肝・小腸(多臓器含む)移植チームと膝・腎移植チームの両方をローテーションして成人・小児の患者さんの診療にあたり、幸い執刀の機会も多く授かって極めて密度の濃い武者修行となりました。外科領域では日本人の評価が極めて高く、偉大な先達のおかげで当初から「Taizo, you are a samurai surgeon, you must be good」と実際の實力に下駄を履かせてもらい、すばらしいトレーニング環境を与えて頂きました。臨床研究についても、すでに論文になつた肝腎同時移植および小腸・多臓器移植に関連する二編を含め、マイアミ大学ならではのテーマに筆頭研究者として複数関わることを許可して頂き、ツザキス・西田両教授を始めとする多くの指導者の下、めいめい研鑽を積むことができました。

診療体系グループ紹介

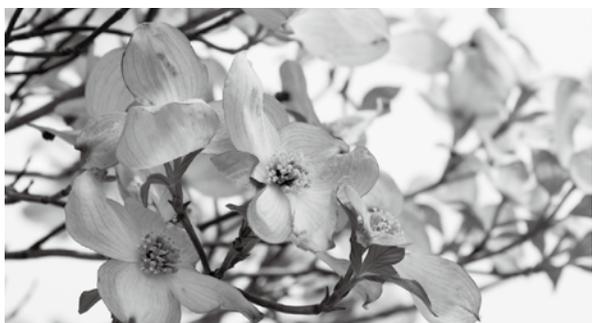
小児外科



慶應義塾大学医学部
小児外科 教授
黒田 達夫 (61回)

小児外科はこどもの一般・消化器ならびに呼吸器の外科治療を行なう診療科です。新生児や乳幼児に対する外科手術は、欧米では20世紀半ばに診療分野として確立されています。慶應大学の小児外科は日本の当該分野のフロンティアとして1959年に傳田俊男先生をリーダーに発足しました。以来、勝俣慶三先生が基礎を築かれ、横山稷太郎先生を経て、森川康英先生を初代教授として独立した教室となりました。この間、現同窓会長の秋山洋国立小児病院名誉院長をはじめ、国立・都立の小児病院のトップや鹿児島大学、東海大学、杏林大学、金沢医科大学の教授など、わが国の小児外科学の中心で指導的に活躍された多くの人材を輩出してきました。これら諸先輩の活躍により、慶應大学小児外科グループ全体として学外からも高い評価を得ております。

私たちのグループでは、伝統的に消化管神経系の先天的な形成異常であるヒルシユスプルング病や消化管



機能臨床、研究の中心的なテーマとしてきました。免疫組織化学や内圧測定から始まった研究は、今日、原因遺伝子の探索や幹細胞治療による再生医療の可能性をテーマに展開されています。また小児呼吸器外科の分野では、嚥胞性肺疾患に対する周産期治療や気管・気管支手術など、グループ内の小児病院を中心に大きな業績をあげて、この分野を牽引しています。そのほか先天性疾患と並ぶ小児外科の大きな課題である小児がんについても、教室は全国的な小児がんの登録や臨床治験の中核となっています。さらに小児の移植治療では慶應大学は本邦の拠点の一つとして、成人の一般・消化器外科と連携して肝臓、小腸の移植手術を行ない、国内屈指の良好な成績と手術実績を積み上げて来ました。特に血液型不適合症例などリスクの高い肝移植で実績をあげています。

慶應大学小児外科グループの大きな特徴は、地域の基幹病院、国立・都立の小

児病院、大病院に多くの人材を出していることであり、また、これらの施設における後進の小児外科医の育成や施設間での臨床・研究の連携が、グループ全体を支える非常に大きな力になっていくことであると思えます。諸先輩の大きな功績に感謝しつつ、今後もフロンティアの精神を失わずに、グループ全体の有機的な機能を維持・発展させて、新たな小児外科学への挑戦を続けてゆきたいと思えます。

近況報告

76回生



さいたま市立病院
外科
岡本 信彦

2003年5月にチーフ出張としてさいたま市立病院に赴任して9年余りが経ちました。生まれも育ちも埼玉で、恵まれた環境の中で仕事をさせていたただいております。上部消化管を中心に診療しており、現在は腹腔鏡下胃切除術の手術の安定と症例の集積、術前化学療法法の適応拡大をメインテーマに取り組んでおります。

2005年ごろからマラソンに熱中し、2010年の東京マラソンで市民ランナーの目標であるフルマラソン3時間切り(サブ3)を達成しました。朝は5時に起きて走り出し、休みには全国のさまざまな大会に妻や仲間とともに参加しております。また、大規模マラソンではかなりの頻度で致死的不整脈や熱中症が発生しますので、レース中の医療支援を行うNPO団体にも参加しコース上での救援活動にも取り組んでおります。救援しながら自分もレースを楽しめますので一石二鳥です。

今後地道に外科医、ランナーとして励んでまいりたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



慶應義塾大学医学部
呼吸器外科
後藤 太一郎

2005年から2008年まで、米国ケースウエスタンリザーブ大学で血管内皮接着分子の研究を行った後、国立病院機構東京医療

センター呼吸器科に3年間勤務し、2011年4月より、慶應義塾大学医学部呼吸器外科に勤務しております。安全性、根治性の高い手術を目指し、日々、手術の向上、手術手順の効率化を心がけております。また、当科レジデントが早く術者として自立できるように、手術教育も重要視しております。研究面では、気管再生の新たな手法を動物モデルで開発中です。忙しくはありますが、充実した日々を送っております。

現在、当科は、医員の総

力を結集し、失地回復に努めています。患者さんと真摯に向き合い、一人一人に良質な医療を提供することが、当科再生への近道であると考え、医員全員が全力で診療・手術に勤しんでおります。今後とも当科の再生を温かく見守っていただければ幸いです。

私事ですが、本年2月、待望の第一子(娘)が誕生しました。医師として、父親として、もう一がんばりたいと思います。

今後ともご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



東京都立小児総合
医療センター
脳神経外科 医長
杉山 一郎

記念すべき100号へ寄稿させていただきます機会を賜り、心より感謝申し上げます。
2009年7月に留学

先のトロントから帰国後、2010年3月に開院予定だった現勤務先の、新設となる脳神経外科部門立ち上げに参加しました。その後約3年経過し、病院全体も脳神経外科も順調に発展してきています。

自分は脳神経外科領域の中でも小児脳神経外科・てんかん外科を専門とします。またスポーツドクターの資格も取得し、JOCのスタッフも兼任しています。2020年に東京でオリンピックが開催されることとなれば、その運営にも

参加したいと考えています。家族は12月に結婚9年目にしてやと子どもを授かることができました。

自分はこれまで医局人事としてはイレギュラーな道を歩ませてもらって来ました。また非常勤講師として後輩達の教壇にも立たせていただいております。慶應脳神経外科医局にはたいへん感謝しております。これからは慶應外科・脳神経外科の益々の発展に、自分なりに微力ながらも貢献していければと思っております。



慶應義塾大学医学部
呼吸器外科
神山 育男

呼吸器外科ポスチーフとして国立病院機構茨城東川崎市立川崎病院に出向いたしました。2012年11月より慶應義塾大学呼吸器

外科に勤務しております。出向先では諸先輩方をはじめ多くの方々にお世話になりました。現在は大学病院勤務ですが、臨床、研究はもとより慣れない教育にも力を入れ、前向きに取り組んでいきたいと考えております。

家族は妻と長女(2歳)です。日々成長する娘に驚きつつ楽しく過ごしています。個人的には増えすぎた趣味を整理し、シンプルな生活を心がけています。

今後ともご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。





水戸赤十字病院
外科
清水 芳政

本日は6歳の長女が来年から小学校にあがるためのいわゆる「お受験」にきています。1歳の長男を義父母に預け、講堂で長女の帰りを夫婦で待ちながらこの原稿を書いています。都内の有名小学校とは違うにしても自分が経験したことのないことでわが子にどう声をかけて良いものか正直戸惑っています。慶應義塾大学外科学教室に入局し6年間の研修の後、多摩丘陵病院での4年間は腹腔鏡下手術を含めた消化器外科手術の極意を学びました。平成19年から水戸赤十字病院で佐久間正祥院長をはじめ9名のスタッフと4名の研修医とともに臨床に明け暮れ、5年半が経ちました。癌患者さんと対面し根治性と低侵襲性の相反する課題に対し日々悩み鍛錬を積んでいます。まだ道の途中でありますが、まだまだ道が険しくご指導いただいた師匠の教えを自分なりに噛み砕き、優しく後輩に伝えることができればと思っています。そろそろ面接が始まりそうです。父親としてもビシッとキメテこようと思います。



慶應義塾大学医学部
小児外科
下島 直樹

私は慶應での楽しいレッスン・マン生活の後、2年目は練馬総合病院、3年目は川崎市立川崎病院にて研修させていただきました。4年目に小児外科に入室しました。チーフ終了後も大学に残り、腸管運動におけるペースメーカー細胞の研究を行いました。8年目の終わりに米国 Mayo Clinic の移植外科に留学するチャ

感っています。慶應義塾大学外科学教室に入局し6年間の研修の後、多摩丘陵病院での4年間は腹腔鏡下手術を含めた消化器外科手術の極意を学びました。平成19年から水戸赤十字病院で佐久間正祥院長をはじめ9名のスタッフと4名の研修医とともに臨床に明け暮れ、5年半が経ちました。癌患者さんと対面し根治性と低侵襲性の相反する課題に対し日々悩み鍛錬を積んでいます。まだ道の途中でありますが、まだまだ道が険しくご指導いただいた師匠の教えを自分なりに噛み砕き、優しく後輩に伝えることができればと思っています。そろそろ面接が始まりそうです。父親としてもビシッとキメテこようと思います。

外科学教室
新入室者紹介



慶應義塾大学医学部
一般・消化器外科
岡村 明彦
(87回相当)

出身校：栄光学園高校
出身大学：千葉大学
クラブ：趣味：硬式テニス部



慶應義塾大学医学部
呼吸器外科助教
鈴木 繁紀
(87回相当)

出身校：福島県立安積高校
出身大学：福島県立医科大学
クラブ：趣味：剣道部

2006年に千葉大学を卒業いたしました岡村明彦と申します。一般病院での初期研修・後期研修の後、このたび中途採用いただくこととなりました。患者様に最善の医療を提供できるように、また慶應の名を汚さぬように精進してまいりますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

今年度より外科学教室に入室させていただきますことになりました鈴木繁紀と申します。駒込病院での外科後期研修を終え、現在呼吸器外科を専攻し、日々御指導をいただいております。波乱万丈のスタートとなりましたが、この新生呼吸器外科の一員として、患者様のために日々精進していきたいと思っております。今後とも御指導・御鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

89回生



国立病院機構埼玉病院
外科
中太 淳平

出身校：慶應義塾高等学校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：趣味：競走部 ジョギング

現在、国立病院機構埼玉病院に勤務させていただいております。春から外科医としてほぼゼロの状態が始まりましたが、先生方のご指導のおかげで日々成長をさせていただいております。これからも精進していく所存です。



NHO 栃木病院
外科
三島 江平

出身校：慶應義塾高等学校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：趣味：ヨット部

89回生の三島江平と申します。4月に入室し、現在はNHO 栃木病院で研修しています。主治医としての診療、手術中の知識や技術の発見により、日々充実しています。今後も一歩ずつ成長して参ります。よろしくお願ひ致します。



足利赤十字病院
外科
横江 隆道

出身校：開成高校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：趣味：医学部管弦楽団

本年度、慶應義塾大学医学部外科学教室へ入室させていただきましたことになりました。



伊勢原協同病院
外科
杉浦 清昭

出身校：麻布高校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：趣味：ラグビー部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させていただきますことになりました89回生の杉浦清昭と申します。現在は伊勢原協同病院外科で卒業3年目の専修医として研修させていただいております。まだまだ未熟者ではございますが、外科医として成長できるよう日々努力してまいりますので今後ともご指導・御鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



荻窪病院
外科
今井 俊一

出身校：筑波大学附属駒場高校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：趣味：サッカー部

この度、刀林会に入会させていただきますことになりました、慶應義塾大学医学部出身の今井俊一と申します。平成24年度入室者の学年幹事をつとめさせていただきますことになっております。何事にも一所懸命に取り組み頑張らせていただきますので、どうぞご指導・御鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



練馬総合病院
外科
浅田 祐介



出身校：慶應義塾高等学校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：趣味：サッカー部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させていただきますことになりました89回生の浅田祐介と申します。済生会宇都宮病院で初期臨床研修を行い、現在は練馬総合病院外科で研修をさせていただきますことになりました。諸先輩方の温かいご指導を賜り、充実した日々を送らせていただいております。微力ながら全力を尽くして参りますので、ご指導・御鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



足利赤十字病院
外科
下田 啓文

出身校：仙台第二高等学校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：硬式庭球部

回生の下田啓文と申します。卒業後2年間は東京都済生会中央病院にて初期研修をさせていただきました。現在は足利赤十字病院にて、部長の藤崎先生をはじめ、諸先輩方から厳しくも暖かいご指導をいただきながら、外科研修に励んでいます。まだまだ至らない点も多く、たくさんの方を学んでいかななくてはならない状況ですが、少しでも成長できるように日々努力して参りますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



さいたま市立病院
外科
下河原 達也

出身校：慶應義塾志木高等学校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：硬式水泳部

この度刀林会に入会させていただきましたこととなりました。慶應義塾大学89回生の下河原達也と申します。高校、大学時代はともに水泳部に所属しておりました。水泳で培った忍耐力と集中力を大切にこれからも精進してまいります。末長いが指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。



静岡市立清水病院
脳神経外科
釜本 大

出身校：Gould Academy (米国)
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：硬式水泳部

この度、慶應義塾大学医学部外科科学教室に入会させていただきましたことになりました。



静岡赤十字病院
外科
溝田 高聖

出身校：聖光学院高等学校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：硬式野球部

この度、慶應義塾大学医学部外科科学教室に入会させていただきましたことになりました。89回生の溝田高聖と申します。静岡赤十字病院にて外科医としてのスタートを切り、日々充実した研修をしております。まだまだ未熟ではありますが、一歩ずつ成長できるよう努力して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



国立病院機構
東京医療センター
外科
大竹 宗太郎

出身校：国学院大学久我山高校
出身大学：東京慈恵会医科大学
クラブ：硬式水泳部

はじめまして、慶應義塾大学外科に入会させていただきました89回生の宗太郎と申します。現在、国立病院機構東京医療センター外科に勤務しております。日々成長できるような環境に参りますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



北里研究所病院
外科
四倉 正也

出身校：開成高校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：硬式水泳部

この度外科科学教室に入会させていただきました89回生の四倉正也と申します。現在北里研究所病院で日々充実した研修をさせていただいております。少しでも成長できるよう精進して参ります。宜しくお願い致します。



足利赤十字病院
脳神経外科
田村 亮太

出身校：慶應義塾高等学校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：硬式水泳部

この度、慶應義塾大学医学部外科科学教室に入会させていただきました89回生の田村亮太と申します。現在は足利赤十字病院にて研修をさせていただいております。



大和市立病院
外科
濱田 賢一

出身校：慶應義塾N.Y.学院
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：硬式水泳部

この度、慶應義塾大学医学部外科科学教室に入会させていただきましたことになりました。



日本鋼管病院
外科
河西 未央

出身校：慶應義塾志木高等学校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：硬式水泳部

この度、慶應義塾大学医学部外科科学教室に入会させていただきました89回生の河西未央と申します。さいたま市立病院にて初期臨床研修を行い、現在は日本鋼管病院にて研修をさせていただいております。外科の諸先輩方からのご指導をいただき、日々成長を遂げております。



立川共済病院
外科
田島 佑樹

出身校：栄光学園高等学校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：硬式水泳部

この度、慶應義塾大学医学部外科科学教室に入会させていただきました89回生の田島佑樹と申します。現在は立川共済病院にて初期臨床研修を行い、現在は立川共済病院にて研修をさせていただいております。



平塚市民病院
外科
由良 昌大

出身校：慶應義塾高等学校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：硬式水泳部

この度、慶應義塾大学医学部外科科学教室に入会させていただきました89回生の由良昌大と申します。



済生会横浜市東部病院
外科
鈴木 佳透

出身校：私立栄光学園高校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：硬式水泳部

この度、慶應義塾大学医学部外科科学教室に入会させていただきました89回生の鈴木佳透と申します。現在は済生会横浜市東部病院にて初期臨床研修を行い、現在は済生会横浜市東部病院にて研修をさせていただいております。

この度、慶應義塾大学外科科学教室に入会させていただきました89回生の由良昌大と申します。卒業後2年間は東京都済生会中央病院にて初期研修を行いました。現在は、平塚市民病院にて諸先輩方に熱いご指導を賜りながら充実した日々を過ごしております。外科医として一歩ずつ成長できるよう日々努力して参りますので、今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

川崎市立井田病院
外科

森 禎三郎

出身校・開成高等学校
出身大学・慶應義塾大学
クラブ・楯・バレーボール部

この度、慶應義塾大学外科学教室に入室させて頂くことになりました89回生の森禎三郎と申します。静岡赤十字病院での初期臨床を終え、現在川崎市立井田病院にてご指導頂いております。今後ともご指導ご鞭撻の程どうか宜しくお願い申し上げます。

川崎市立川崎病院
外科

松田 信作

出身校・東京学芸大学附属高等学校
出身大学・群馬大学
クラブ・楯・バスケットボール部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させて頂く事になりました松田信作と申します。現在、川崎市立川崎病院に出向させて頂き御指導頂いております。外科医として、患者様の為に日々精進して参ります。今後とも御指導御鞭撻の程、宜しく御願致します。

刃林会入会



済生会横浜市東部病院
外科

三原 康紀

2006年に東京医科大学を卒業し、済生会横浜市東部病院にて外科後期研修をさせて頂いておりました。今年度より同院外科の医員となり、同時に刃林会に入会させて頂けることとなりました。熱意を持って、外科学を精進して参りたいと思っておりますので、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

新入室者・その他

堀越 知 (88回相当)
国立病院機構栃木病院

阿部 陽友
永寿総合病院

江頭 有美
済生会中央病院

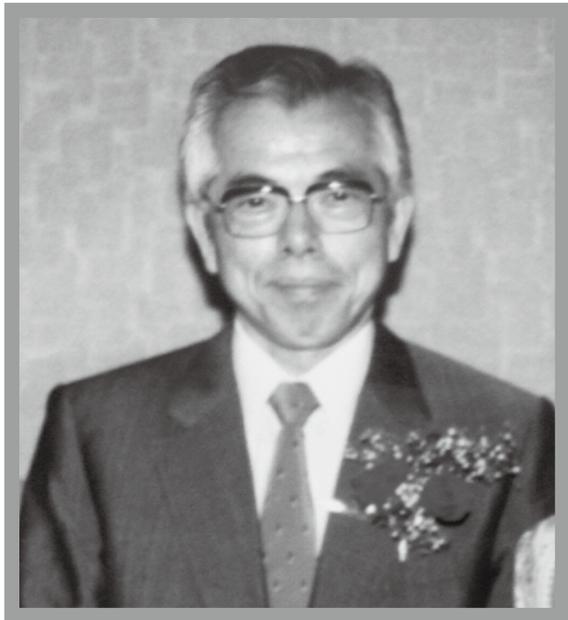
斎藤 慶幸
福生病院

金澤 徳典
済生会宇都宮病院

追悼

故 石原恒夫先生を
偲んで

慶應義塾大学医学部
名誉教授
小林 紘一 (46回)



元外科教授で慶應がンセンター所長であられた石原恒夫先生(30回)は平成24年8月25日に老衰のため逝去されました。(享年86歳)
先生は昭和26年3月に慶應義塾大学医学部を卒業され、インターン修練の後、昭和27年5月に外科学教室に入室、昭和29年1月肺外科研究室に入りました。昭和37年9月に足利日赤病院に外科部長として赴任され、昭和41年1月に帰室し、11月より医局長を務められ

ました。昭和44年7月に国立大蔵病院に外科部長として赴任されましたが、当時は全国的な医学部改革の中心にあり、外科学教室の各研究室の指導者を選ぶのは現役研究室員に任せられたため、肺外科研究室の責任者として石原先生が選ばれ昭和45年7月に教室に戻られました。昭和46年4月に外科学専任講師、昭和49年4月に助教、昭和63年6月に外科教授に就任され、慶應がンセンター所長を兼任されました。平成4年3月

に定年退職された後、社会福祉法人聖母会 聖母病院院長、名誉院長として医療の発展に尽くされました。
先生のご業績は多岐にわたりますが、気管・気管支形成に関わるお仕事は先生のライフワークの一つです。術後合併症を来すと苦渋することの多い、難易度の高いこの術式を安全なものにするための基礎実験を犬を用いて行い、術後の肺循環や気管支循環による血流、コラーゲンや酸素分圧などの回復過程を創傷治療の面から検討し、その知見を臨床に還元しました。昭和54年には「気管分岐部の切除と再建に関する研究」で北島賞を受賞され、昭和59年にはこの領域のリーダーの一人として全国規模の研究集会「気管気管支再建手術」を発足させました。平成2年に第7回呼吸器外科学会の会長を務め、気管・気管支形成術をシンポジウムのメインテーマの一つに取り上げられました。先生は転移性肺腫瘍に対する外科治療にも挑戦されました。関東地方の施設を中心に転移性肺腫瘍研究会を立

ち上げ、今までに3000例以上の症例が登録されており、診断や治療に関する知見が蓄積されています。現在、化学療法や内視鏡の進歩により転移性肺腫瘍に対する治療概念が変わりつつありますが、これも原発巣別に多くの症例が登録され従来の成績と比較検討ができるからです。

先生のご業績の一つは優秀な後輩を多数育てられたことで「人事の石原」と呼ばれたように研究室員の性格をよく把握され、研究室員の教育や研究テーマの選定、関連施設への派遣に当たっては絶妙の采配を示されました。先生に育てられた弟子達は、それぞれの場所で活躍していますが、その中から9人の教授が輩出し、一時は全国の呼吸器外科教授の数の1/4近くを占めることもありました。

先生は日本における、また慶應における呼吸器外科の発展に強い意志を示されました。日本呼吸器外科学会の設立と、当時は結構難しかった日本医学会への加入に携わるとともに、先生が永い間熱望し、いろいろと根回しをされた、慶應における呼吸器外科の独立は先生が退任された年の平成4年の秋にやっと実現しました。あの時の先生の笑顔を忘れることはできません。

石原先生のご趣味は写真で、古稀の年に写真文集「春夏秋冬」を、喜寿の年に「四季点描」を自費出版されました。ご自分の庭で丹精込めて育てられたポタ、近くの砧公園や、奈良、京都など各地を訪ねての花

や景色などに、心を込めた文章をつけ加えて被写体に命を蘇らせました。先生が学会の後、また時には途中にわれわれ研究員に気付かれぬように(ばれないように)写真撮影に行かれることがありました。武士の情けというか見て見ぬふりをしていました。資格や持ち物でそれが判るのがおかしかったです。三脚は隠し様がなかったので。
私が外科学教室に入室した時の医局長が石原先生で、その時の印象は謹厳実直な怖い、まさに「医局長」でした。私は教育出張の2年目に新居浜療養所で肺の手術をさせてもらい肺という臓器の面白さに触れ、肺外科研究室に入りました。その時の指導者が石原先生でした。それ以来先生には

臨床や研究は勿論、公私ともにお世話になりました。石原先生を師として持ったことは大きな幸せでした。今から考えると石原先生がおっしゃったことにはもつと深い意味があったのではと忸怩たる思いに捉われることが多々あります。不肖の弟子だったのでしよう。
現在、呼吸器外科研究室は塗炭の苦しみの中にあります。先生が築かれた栄光を取り戻すためOBと現役の頑張りが必要です。皆頑張っています。必ず復活します。先生天国からみて下さい。
石原先生長い間ご指導を賜り本当にありがとうございます。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



慶應病院 外来 外科担当表

初診外来 (午前)

一般・消化器外科

月 北川雄光
火 石井良幸
水 田邊稔
木 神野浩光
金 長谷川博俊
土 北川雄光

小児外科

月 黒田達夫
火 黒田達夫
水 (第2・4のみ)
木 森川康英
金 藤野明浩
土 星野健
下島直樹

心臓血管外科

月 田口眞一
火 岡本一真
水 饗庭了
木 志水秀行
金 吉武明弘
土 四津良平
工藤樹彦

呼吸器外科

月 大塚崇
火 後藤太一郎
水 河野光智
木 神山育男
金 羽藤泰
土 後藤太一郎

脳神経外科

月 大平貴之
火 佐々木光
水 戸田正博
木 吉田一成
金 秋山武紀
土 堀口崇
秋山武紀

◎印 診療部長
○印 診療副部長

特殊外来 (午前)

月 川久保博文
火 高橋常浩
水 坂田道生
木 田中克典
金 阿部雄太
土 長谷川博俊

肝臓・移植

月 八木洋
火 渡辺真純
水 星野健
木 尾原秀明
金 林田哲
土 板野理

肝臓・移植

月 石井良幸
火 篠田昌宏
水 遠藤高志
木 竹内裕也
金 川久保博文
土 田中克典

特殊外来 (午後)

月 北郷実
火 竹内裕也
水 大森泰
木 和則仁
金 和則仁
土 和則仁
火 和則仁
水 和則仁
木 和則仁
金 和則仁
土 和則仁

肝臓・移植

月 日比泰造
火 日比泰造
水 日比泰造
木 日比泰造
金 日比泰造
土 日比泰造

心臓

月 岡本一真
火 岡本一真
水 岡本一真
木 岡本一真
金 岡本一真
土 岡本一真

小児初診外来

月 下島直樹
火 下島直樹
水 下島直樹
木 下島直樹
金 下島直樹
土 下島直樹

脳腫瘍補助療法 II

月 佐々木光
火 佐々木光
水 佐々木光
木 佐々木光
金 佐々木光
土 佐々木光

肝臓・移植 板野理
小児移植 下島直樹
脳・定位放射線 (第1) 小林正人
遠藤高志
岡林剛史

機能疾患

機能疾患 パーキンソン病 (第1) 大平貴之
脳血管障害 堀口崇
脳神経 (第1・3) 秋山武紀

肝臓・移植

肝臓・移植 八木洋
阿部雄太
尾原秀明

訃報

●吉田 利一君 (26回)
平成 24 年 1 月 21 日
●石井 澄君 (30回)
平成 24 年 2 月 19 日
●磯部 房元君 (22回)
平成 24 年 5 月 9 日
●前田 勉君 (34回)
平成 24 年 6 月 27 日
●青木 克憲君 (53回)
平成 24 年 7 月 3 日
●大島 厚君 (54回)
平成 24 年 8 月 14 日
●石原 恒夫君 (30回)
平成 24 年 8 月 25 日
●千葉 敬七郎君 (専3回)
平成 24 年 10 月 19 日
●伊藤 國彦君 (27回)
平成 24 年 11 月 17 日
●田仲 基宏君 (36回)
平成 24 年 12 月 11 日

開業

●古梶 清和君 (63回)
馬車道慶友クリニック
平成 24 年 12 月 17 日

編集後記

最近編集会議にもあまり出席していないのに、編集後記を書くのは後ろめた気がしますが、最近感じた事を少し書いてみたいと思います。

記事の内容を見ると、最近慶應外科の活動、成果は活発で大いに誇れるものと思います。又、他の大学外科学教室への入局者が激減しているなか、慶應は多数の入局希望者がいるという事実は、誠に心強い限りです。

さて、最近の健康維持ブームは凄いなと思います。マスコミのPRの第一位は特定健康食品(サプリメント)ではないでしょうか。コンドロイチン、グルコサミン、コラーゲン等、目にしない事はない毎日です。ここに消費者から投げられる金額は巨額にのぼるでしょう。

編集委員

委員長 小平 進
委員 川野 辰夫
熊井浩一郎
高見 博
大山 廉平
佐藤 周三
志水 秀行
石井 良幸
高橋麻衣子

事務局からのお知らせ

慶應義塾大学医学部外科学教室のホームページがリニューアルされました。

<http://keiosurg.umin.jp/>

これらの品に明らかに薬効があれば、当然医薬品として認められているはずであります。そのような商品のPRに何の規制もないのはおかしい(小さく個人の感想ですなど)と書いてある(初回限定何割引きで客寄せをするのも許せない事だと思えます)。

又、政府自身も医療費削減として、ジェネリックの使用を推進し、使用すれば医療者側に利益が出るというアメをぶら下げている。しかしながら、ジェネリックが先発品と同等と認めている医師はいないのでないでしようか。

東京保険医協会によると①ジェネリックは副作用のチェックは省略されるなど、同じ成分、同じ効能ではない。②ジェネリックの効能にはチェック項目が少ないので、バラツキがある。③効能格差の許容範囲がプラス20%マイナス20%で効き目が強いものと弱いものがある。④薬局で出るジェネリックがこの会社

製のものか、医者側にはわからない。等々の問題があるという。

又、最近出た話題だが、生活保護受給者が増えたので、これらの人に使う薬はすべてジェネリックにしようという動きがあるという。恐らく財務筋から出た暴論であろうが、医療が金のあるなしで公然と差別されるのは、とうてい許せない。アメリカの様に、保険会社が医療内容を許容するような社会には、絶対したくないと思います。

この原稿を書いているのは、衆院選前ですが、税と福祉の一体改革が守られるかどうか、官僚支配からの脱却ができるかどうか、注視したいと思います。

(T・K)



善意と医療のかけ橋



2012年10月1日よりベネシスと日本赤十字社の血漿分画事業部門は統合し、一般社団法人 日本血液製剤機構 として事業を開始しました。

日本血液製剤機構
Japan Blood Products Organization
<http://www.jbpo.or.jp>